

授業科目名	共生科学総論	単位数	2単位
担当教員名	渋谷聡・伊藤一美・堀越由紀子	担当形態	クラス分け
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>DP1.多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけることができる（貢献力）  DP3.自分の専門以外の領域からも得られた知見を統合することができる（統合知）  DP5.共生社会創造の目的のために、様々な分野について絶えず学び続ける態度を持つことができる（継続力）</p>			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><b>【到達目標】</b>  共生社会の実現に向けて、ある分野から学生自身が考える共生について他者に説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>共生科学の基礎的な科目として、人と人、自然、文化、国との共生について、テキストや学生自身の経験を踏まえ様々な分野や領域から多角的に学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス等（渋谷、伊藤、堀越）  第2回：人と人の共生と教育（伊藤担当）  第3回：人と人の共生と福祉（堀越担当）  第4回：人と人の共生とスポーツ（渋谷担当）  第5回：インクルーシブ教育と国際（伊藤担当）  第6回：グローバル化と福祉（堀越担当）  第7回：スポーツと国際（渋谷担当）  第8回：数学とインクルージョン（伊藤担当）  第9回：自然環境と福祉：グリーンソーシャルワークの観点から（堀越担当）  第10回：自然環境とスポーツ（渋谷担当）  第11回：共生教育について考えをまとめる（ディスカッション）（伊藤担当）  第12回：共生福祉について考えをまとめる（ディスカッション）（堀越担当）  第13回：共生スポーツについて考えをまとめる（ディスカッション）（渋谷担当）  第14回：共生社会に向けて考えをまとめる（ディスカッション）（渋谷、伊藤、堀越）  第15回：まとめ（渋谷、伊藤、堀越）  定期試験</p>			
<p>スクーリングでの学修</p> <p>教育（2、5、8、11回）、福祉（3、6、9、12回）、スポーツ（4、7、10、14回）の観点を中心に、アクティブラーニング手法も用いて学修する。（主に第1回から第14回の内容を含む）</p>			
<p>テキスト</p> <p>山脇直司（編著）（2019）「共生科学概説 共生社会の構築のために 教育・福祉・国際・スポーツ（星槎大学叢書）」かまくら春秋社、978-4774080086</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>・伊藤一美（2022）「[教育研究活動] 発達性ディスカルクキュリア研究会設立趣旨とその経緯—算数・数学が嫌い・苦手な子どもたちへの学習支援活動をとおして—」星槎大学紀要 共生科学研究, 17, 123-137.</p> <p>・日本ソーシャルワーカー連盟（2022）「『多様な文化的背景をもつ地域住民（外国人等）に対する総合的な支援をコーディネートする多文化ソーシャルワークに関する調査研究』（多文化ソーシャルワーク調査）報告書」  <a href="https://jfsw.org/2022/04/25/2512/">https://jfsw.org/2022/04/25/2512/</a></p> <p>・ドミニリ著・上野加代子他訳（2017）「グリーンソーシャルワークとは何か：環境正義と共生社会実現」ミネルヴァ書房。ISBN:978-4623080540</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）</p>			